

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻147号 平成22年(2010)3月31日 Vol.40 No.2・3



目名神楽・かべぬり

「民俗芸能特別公演」

平成22年1月26日(火)～31日(日)
(文化庁「地域文化芸術振興プラン推進事業」)

博物館は、資料の収集と保管(保存)と展示(公開)を目的に設置され、実物(本物)を、研究解明し、できるだけ/環境を実際に似せ展示するのが原則です。しかし、無形の文化財に関しては、道具、衣装などを収集し、文字・映像等で記録展示してきました。

青森県立郷土館では、直に無形民俗文化財の保存と公開を目論見、民俗芸能特別公演を郷土館内において開催しました。

青森県内の津軽、南部、下北のそれぞれの地域で伝承されてきた貴重な民俗芸能を広く一般に公開し理解を深め、無形民俗文化財保存団体、無形文化財保持者の活性化を図ると共に、郷土館においてはどのような方法で公開すべきかを考え実施しました。

それぞれの地域で行われている無形文化財にできるだけ近い形を再現し、その行事に必要な一連の構成された演目を欠くことなく、また、唄い踊り所作を省き略すこ

となく発表できるよう、舞台を郷土館内の大ホールに設けました。観る側にも床に座って観るといふ、現地の形態を再現しました。芸能毎に舞台を整え、さらには、獅子踊りのように、舞台を離れ、床を大地に見立てヤマを立てての舞いを、立って観るといふ現地の再現もしました。

また、全国の一線の研究者・権威を招き、団体・保持者の各公演前に解説を、公演後に感想をいただきました。今大会の記録(『民俗芸能特別公演 記録』附DVD2枚 平成22年3月 青森県立郷土館ほか)にも報告執筆をお願いしました。本県の民俗芸能を広く知らしわせる一助となったと思います。

雪深い1月の末に、多くはいつの時代からも推し量れない、人から人への伝承された無形のわざを、二十一の団体・保持者が、郷土館の中で、姿・形を現した公演となりました。

企画展「花田陽悟展」 7月7日(火)～8月16日(日)

花田陽悟氏は(昭和5年、青森市出身)は、青森県教



職員として長年に渡り本県教育の向上に尽力され、退任後は青森市教育長、青森市助役など要職を歴任しました。その一方で、昭和55年頃から本格的に版画の制作を開始し、繊細な彫りによる美しい色彩の多色木版画作品を制作し、棟方志功が立ち上げた日本板画院の同人として、日本板画院展を中心に作品の発表を続けています。

当館では、花田氏から平成20年度に多色木版画の作品100点を一括寄贈されたのを機会に、青森県内を主とした風景を、美しい色彩で表現した版画作品を広く鑑賞していただきたく本企画展を開催しました。

会場は、年代別に100点の多色木版画を展示した他に、年賀状や小品などの参考品のコーナー、さらに「多色木版画の工程のコーナー」なども設け、複雑な多色木版画の制作の方法を理解してもらえるようにしました。

また、会期中に花田氏による講演会「解説 多色刷り版画のできるまで」を7月12日(日)に小ホールにて実施し、さらに観覧者の質問に、作家が応える「展示解説「ギャラリー Q&Aの日」」も2回行いました。

同展は、観覧された方々から花田氏の繊細な彫りと美しい色彩の多色木版画の世界に感動されたというご感想を多くいただき、好評のうちに終了しました。

〔学芸主幹 対馬 恵美子〕

特別展「妖怪展～神・もののけ・祈り」

8月28日(金)～10月12日(日)

近年、全国的に静かな「妖怪」ブームが続いているといわれ、各地の博物館でも妖怪をテーマとした展示が開催されてきました。県内では八戸市立博物館がその嚆矢となり、当館も妖怪に取り組むこととなりました。

しかし妖怪の定義については、歴史学や民俗学、隣接諸学が様々な視点で分析を続けているものの、未だに明らかな決着がついておらず、一般には多様なイメージが広がっています。

よって当展示では「妖怪」とは「人々の信仰を失った古い神々や、人知を越えた超自然的な現象やものに対する、人々のさまざまな不安や恐怖から生み出されてきた存在である」と仮定したうえで、近世以降、都市住民によって定型化されて描かれてきた有名な「化物」「妖怪」を提示するとともに、それらを生み出す背景となったであろう、伝説や民間信仰に登場する恐ろしい姿の神仏たち、民衆が感じた死の世界への不安、自然界における異常現象の記録などについて、県内から各事例を収集し、提示しました。

当展示をきっかけとして、新しい知見が得られた事例も少なくなく、県民の皆様や、様々な学問分野の方々からも、たくさんの反響をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

〔学芸主査 小山隆秀〕



写真「男人魚の図」(当館蔵)

特別展「北海道・北東北の縄文～ひと・暮らし・まつり・交流～」

10月20日(火)～11月23日(月)



「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」が世界遺産の暫定一覧表に記載されたことから、青森県立郷土館は、北海道・北東北地域の主な出土品と暫定一覧表記載の15遺跡の価値や魅力を広く紹介する展示会を開催しました。500点を超える出土品を展示し、当時の社会や交流、暮らしや技術、人々の精神をわかりやすく伝えることをめざしました。

世界遺産候補の15遺跡の出土資料が一堂に会するのは、はじめての企画です。そして北海道・北東北地域の縄文文化の基盤は厚く、その他の遺跡からもデザインや技術的にも優れた品々が数多く出土していることも紹介しました。また、縄文の人そのものこそ多くのものを

語ると考えたため、人骨を展示しました。お客様が足を止めて熱心に見学されていたのは、病気のために幼い頃から歩くことが出来なかった洞爺湖町入江貝塚から出土した十代後半の人骨です。やせた四肢の骨の前で、大きくなるまで、その方を支えた家族や集落の人の姿を思い、助け合いの精神を感じられた方も多かったようです。

展示の最後はパネルコーナーとしました。世界遺産候補の15遺跡のパネルと日本の世界遺産をパネルで紹介しました。ここでも多くの方が熱心にご覧になっていました。



また、関連事業として11月8日(日)に青森県総合社会教育センターで記念講演会を実施し、多くの人で賑わいました。

〔主任学芸主査 齊藤 岳〕

企画展「野山を彩る北の植物たち～一戸清志写真展～」

12月4日(金)～平成22年1月17日(日)

一戸清志氏は、平川市役所に勤務する傍ら、北東北に生育する野生植物の魅力ある姿かたち、変異、生育環境などの多様性に興味をもち、植物学的な観点から写真撮影を行っています。写真歴は約35年になり、これまで新聞に「青森県のラン」などについて写真記事を連載したほか、写真展も数回開催しています。



フクジュソウ

(岩手県葛巻町、5月上旬撮影)

めでたい名前であるが、有毒成分がある。誤って食べると嘔吐、呼吸困難、心臓麻痺などで死亡することもあるという。

どこにでもあふれる花ではないが、生育地では群生する。

本企画展では、一戸氏が長年に亘って撮影した数多くある写真の中から115点の写真を選び、「待ちわびた春の花」、「やさしいスマイル」、「野生ランの魅力」、「奇妙な植物」、「高山に咲く」、「白神山地の植物」、「精緻な姿を愛でる」、「野山を彩る」という8つのテーマに分けて展示しました。写真には1点ずつ解説が添えられ、読みながらそれを読んで写真を鑑賞する来場者が多く見られました。

〔主任学芸主査 島口 天〕



ミチノクコザクラ

(岩木山、8月上旬撮影)

岩木山を代表する高山植物で、岩木山での個体数は多い。雪が融け次第咲くので、地形により咲く時期も長期にわたる。

エゾコザクラやハクサンコザクラとは親戚関係(変種)にあたる。

特別企画「昭和レトロの建物をめぐる 青森街かど探偵団」

9月13日(日)・9月27日(日)



みなさんは、青森の街に現存する一番古い建物はどれで、いつ頃のものか知っていますか。また、青森の繁華街・歓楽街はどこなのか知っていますか。おそらく自信をもって答えら

れました。各回のテーマは、「かつての中心街を歩く」、「交通と街並みの変遷を見る」で、それぞれ2時間くらい青森の街を歩きました。

ところで最初の質問の答えは、今から113年前、明治30(1897)年に建てられた、浜町カトリック教会(現本町カトリック教会)だと思われます。正解したでしょうか。きっと、こんなに古い建物があるとは、意外だったのではないのでしょうか。また明治・大正期の繁華街は、大町・米町・浜町でしたが、今のどこにあたるか知っていますか。こうした意外に知られていない、街の

れる方はいないのではないのでしょうか。それには青森の発展の経緯が大きく関わっているのですが、意外に知られていからだと思います。

青森の都市化は、明治以降に始まります。それまでは、いくつもある港のひとつでしたが、県庁が置かれ、鉄道が敷かれ、上野からの終着点となりました。つまり、首都圏と開拓地北海道の結節点になり、食料・衣料等の供給地になったのです。交通が街の発展に大きな役割を果たしたのです。ところが、青森駅の玄関口や青森港の棧橋が移動して、繁華街も移動しました。また大火も頻発、戦災の規模も東北最大級といわれ、短期間に激変してきたのです。青森の街の変化は、住んでいる人でも、なかなか全体をとらえるのは難しいと思います。

こうした、少し昔の建物や街の痕跡をたどりながら、街の移り変わりを探るために、昨年9月、郷土館では「あもり街かど探偵団」を結成、オリジナル・カンパジを胸に付け、2回にわたって街歩きツアーを行い



記憶をたどるツアーを、今年も9月に計画しています。まだ参加されていない方は、参加してみたいかでしょうか。きっと青森の街を誇りに思えるようになるでしょう。

〔 研究主幹 安田 道 〕

平成22年度 行事予定

企画展「新収蔵2009」	会期	平成22年3月 5日(金)~4月 4日(日)
共催展「生誕100年記念津軽に生きた大地の画家 常田健」	会期	4月16日(金)~5月16日(日)
共催展「サントリー美術館展」	会期前期	5月21日(金)~6月10日(木)
		会期後期	6月12日(土)~7月 4日(日)
企画展「対馬隆『野鳥の森』写真展」	会期	7月14日(水)~7月27日(火)
文化庁巡回展「発掘された日本列島 2010」	会期	8月 3日(火)~9月 5日(日)
北東北3県共同展「境界に生きた人々」~遺物でたどる北東北の歩み	会期	9月17日(金)~10月24日(日)
共催展「生誕250年 北斎富士を描く」	会期	10月30日(土)~12月 5日(日)
特別展「青森のわざ~伝統工芸」	会期	12月11日(土)~平成23年2月20日(日)
企画展「新収蔵2010」	会期	2月26日(土)~3月21日(月)

「土曜セミナー」	土曜日	
「自然観察会」	6月27日(日)・10月27日(日)	
「ミュージアム探検隊」	土曜日・日曜日・祝日・春休み	小・中学校生対象
「夏休みこどもの国」	8月 1日(日)・8日(日)	小・中学校生対象
「冬休みづくりまわし」	平成23年1月9日(日)	小・中学校生対象
「郷土館クイズラリー」	夏休み・冬休み期間	小・中学校生対象

人事異動 (平成22年度)		(転入) 主 幹		(退職) 解説員	
(転出) 館長	外崎 純一	(転入) 主幹	槻ノ木沢 恵美子	(退職) 解説員	木立 裕子
(転入) 理事・館長	細越 友之	学芸課		(退職) 解説員	鶴間 有希
(退職) 副館長	杉田 守	(転出) 主任学芸主査	斎藤 岳	(退職) 解説員	川村 多衣子
(転入) 副館長	中村 行利	(転出) 学芸主査	大田原 慶子	(採用) 解説員	山田 五月
総務課		(転入) 主任研究主査	北田 智弘	(採用) 解説員	小松 由依
(転出) 主 幹	坂本 賢一	(転入) 学芸主査	伊藤 由美子	(採用) 解説員	倉光 伸

青森県立郷土館だより Vol.40 No.2・3 通巻147号 2010.3.31
 【編集・発行】 青森県立郷土館 〒030-0802 青森市本町二丁目8-14
 【TEL】 017(777)1585(代) 【Fax】017(777)1588
 【電子メール】 E-KYODOKAN@pref.aomori.lg.jp
 【ホームページ】 http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan.html



「民俗芸能特別公演」

平成22年1月26日(火)～31日(日)

出演者・演目(26日昼公演～28日夜公演)

1月26日(火)午後1時～
昼の部
「津軽三味線」

【解説及び講評・記録】

小島 美子
(国立歴史民俗博物館名誉教授)

1.高橋竹山と私の三味線

【出演】 西川 洋子
(津軽三味線・語り)

(ぼ(坊)さま三味線から現在の三味線へ・・・さんさ時雨・二上がり・じょんから節・十三の砂山(念仏唄)・じょんから節旧節・あいや節・よされ節・弥三郎節・雲竹口説き節・サイギサイギ・アリラン・聖者の行進・ななし三味線・新じょんがら節・・・)

2.津軽の郷土芸能の手踊り

3.唄、津軽民謡と手踊り、三味線

【出演】
西川 洋子(津軽三味線・唄)
小笠原 幸一(太鼓・唄)
(高橋竹苑社中)

太田清美社中

津軽三下り
津軽小原節旧節
津軽あいや節
津軽あいや節旧節
津軽よされ節
津軽じょんから節旧節
津軽甚句(どだればち)

1月26日(火)午後6時～
夜の部
「岡三沢神楽」

【解説及び講評・記録】

小野寺 節子
(日本民俗音楽学会理事・
國學院大学兼任講師)

【出演】 岡三沢神楽保存会

権現舞
扶桑荒神(ふそうこうじん)
鶏舞
杵舞
両剣
盆舞
安珍清姫

1月27日(水)午後1時～
昼の部
「津軽神楽」

【解説及び講評・記録】

笹森 建英
(弘前学院大学文学部研究科教授)

【出演】 津軽神楽保存会
(4地区)

神 入 舞(かみいりまい)
千 歳(せんざい)
神 葉(さかきば)
磯 良(いそら)
朝 倉(あさくら)
宝 剣(ほうけん)
御 獅 子(おしし)
天 王(てんのう)
弓 立(ゆだて)
湯均し舞(ゆならしまい)
四家の舞(しかのまい)

1月28日(木)午後1時～
昼の部
「津軽の獅子踊」

【解説及び講評・記録】

大村 達郎
(宮本記念財団調査員)

(解説) 青森県獅子踊保存会
理事長 工藤 哲彦

【出演】 尾崎獅子踊保存会
山踊り

【出演】 大沢獅子保存会
大沢獅子踊

【出演】 鳥井野獅子踊保存会
雌獅子隠しの踊り

1月27日(水)午後6時～
夜の部
「津軽の獅子踊」

【解説及び講評・記録】

大村 達郎
(宮本記念財団調査員)

【出演】 古懸獅子舞保存会

追込踊
山かけ踊
山担ぎの踊
暇乞いの踊

【出演】 紙漉沢獅子舞保存会

川わたり
雌獅子隠し

【出演】 五代獅子舞保存会

獅子舞

【出演】 高田獅子踊保存会

舞初め
橋渡り
川渡り

1月28日(木)午後6時～
夜の部
「おしら祭文」

【解説及び講評・記録】

大島 建彦(東洋大学名誉教授)

【出演】

日向 けい子(イタコ)
林 のり子(日向けい子の
師匠林ませの娘)
母の回想(林)
春祈禱(日向)
一本の柱(林)
おしら祭文(日向)

「民俗芸能特別公演」

平成22年1月26日(火)～31日(日)

出演者・演目(29日昼公演～31日夜公演)

1月29日(金)午後1時～
昼の部

「福浦の歌舞伎」

【解説及び講評・記録】

小野寺 節子

(日本民俗音楽学会理事・
國學院大学兼任講師)

【出演】 福浦芸能保存会

三番叟(さんばそう)
忠臣蔵 五段目 「勘平猪討ち、与
一兵衛・定九郎金取の場」
(ビデオ)北の漁村に100年の花道
(ビデオ)義経千本桜
一ノ谷嫩軍記 三幕目 [熊谷、敦
盛、首取りの場]
(ビデオ)忠臣蔵六段目 「勘平
切腹の場」
神楽「平獅子」
神楽「昔神楽」

1月30日(土)午後1時～
(東通の手踊り・獅子舞・神楽)

【解説及び講評・記録】

懸田 弘訓

(福島県文化財保護審議会委員)

「東通のもちつき踊」

【出演】 目名婦人会

田植餅つき踊り
つきあげ
越中小原
追分

「東通村の獅子舞」

【出演】 入口青年会

翁 (おきな)
虎の口 (とらのくち)
乗り権現舞(のりごんげんまい)

「東通神楽」

【出演】 目名神楽会

平獅子(ひらじし)
神力万歳(しんりきまんざい)
おか面(おかめん)
かべぬり
つきあげ三番(さんばん)

1月31日(日)午後1時～
昼の部

「八戸えんぶり」

【解説及び講評・記録】

星野 紘

(東京文化財研究所名誉研究員・成城大
学大学院講師・元文化庁調査官)

【出演】 中居林太神楽保存会
神楽舞

【出演】 八戸市妻ノ神えんぶり組

摺り初め
松の舞
中摺り
笠づくし
苗取り舞
田植え
金輪切(かなわきり)
えびす舞い
大黒舞
摺り納め

【出演】 八戸市中居林えんぶり組

摺り始め
松の舞
えんこえんこ
中摺り
田植え万才
田植え
金輪切り
大黒舞い
えびす舞い
摺りおさめ

1月29日(金)午後6時～
夜の部

「南部切田神楽」

【解説及び講評・記録】

小野寺 節子

(日本民俗音楽学会理事・
國學院大学兼任講師)

【出演】 南部切田神楽会

権現舞
三番叟(さんばそう)
(狂言)次郎太郎
三本剣(さんぼんのけん)
盆舞(ぼんまい)
鶏舞(とりまい)

1月30日(土)午後6時～
夜の部

「下北の能舞」

【解説及び講評・記録】

星野 紘

(東京文化財研究所名誉研究員・
成城大学大学院講師・元文化庁調
査官)

【出演】 蒲野沢青年会

鳥舞(とりまい)
鐘巻(かねまき)
信夫(しのぶ)
狐舞(きつねまい)
口上(こうじょう)
権現舞(ごんげんまい)

1月31日(日)午後6時～
夜の部

「法霊神楽」

【解説及び講評・記録】

高山 茂

(日本大学教授)

【出演】 おがみ神社法霊神楽保存会

祈祷神楽(きとうかぐら)
家固め(やがため)
権現舞
山の神舞
剣舞(けんまい)
番楽(ばんがく)
鶏舞(とりまい)
翁舞
三番叟(さんばそう)
杵舞(きねまい)
注連縄切舞(しめなわきりまい)
一斉歯打ち
身固め(みがため)
御祝い(ごいわい)